

センター試験「漢文」解説

【書き下し】

家塾を典るは、其の人を難しとす。厳なれば則ち子弟に利あるも久しくする能はず、狎るれば則ち己に利あるも其の父兄の託に負く。

頃、一鉅公、客を招き子を教へしむ。積日、業進まず、蹶躅として退かんとす。鉅公、之を寛り、置酒し、汎く昔より名流の後嗣、類振るはざるを引き、且つ曰はく、「名は、古今の美器にして、造物者深く之を吝しむ。前人之を取ること多ければ、後人豈に応に復た得べけんや」と。士人解悟し、其の迹、遂に安し。

張無垢云ふ、「某、人家の子弟の醇謹及び俊敏なる者を見れば、之を愛すること昔に常人の宝を愛するがごとく、唯だ其の埋没及び之を傷損するを恐るのみならず、必ず之をして尊貴の所に在らしめんと欲す。故に人家の子弟を教ふるに、敢へて一点の欺心も萌さず。其の鄙下刻薄も、亦た為に勸戒太息して之を勧誘す。此れ平生為さんと樂ふ所の者なり。今子弟を教ふるに、乃ち主人の厚薄を以て隆殺を為す、亦笑ふべし」と。渾然たる忠厚の氣、敬して之を仰ぐべし。

【通釈】

私設の塾をやつてゆくには、人間関係が難しいのである。厳しくすれば、子弟のためにはなるが、（生徒がやめてしまうので）長続きはしないし、馴れ合いで教えれば、自分は儲かるが、（成績が上がらず）父兄の期待には背くことになる。

最近、ある有力者がよそから人を招いて、自分の子の家庭教師にした。日が経っても学業が進歩しないので、教師は畏れ謹んで職を辞退しようとした。有力者はそれに気がついて、彼のために宴を開き、広く昔から名家の跡継ぎは大体成績が振るわない例を引いて、「名声というものは、古今を通じて立派な才能であり、造物主はそれを出し惜しみするのである（誰にでも与えるわけではない）。前の人が名声を多く獲得してしまえば、後の人はどうしてもう一度それを獲得することができようか」と言った。教師は、有力者が子の成績不振を責めていない事を知って、それ以後安心して仕事をしたのである。

張無垢は云っている。「私は人の家の子弟が素直で慎み深く、才知が優れていれば、彼を愛することは、ただ普通の人が財宝を愛し、それが埋没したり傷つき損なわれたりするのを恐れるようにするだけではなく、必ずその子弟を高い地位につけてやりたいと思うのである。だから、人の家の子弟を教えるのに、決してその親や子弟をだましたりごまかしたりしてやろうというような気は起こらないものだ。子弟が心が卑しく人情味がない性格であっても、その子のために善を勧め悪を戒め、ため息をつけて彼を感化して導くのである。それが私が普段からしようと心がけていることである。ところが今の教師達は子弟を教えるのに、主人がくれる報酬が多いか少ないかによって、教育をしっかりやったりいい加減にやったりしているのは、笑うべきことである。」張無垢の氣が、大きく充実していることは、まさに敬して仰ぐべきであろう。

【解説】

やや難しい文章である。普段からこの手の論説的文章を読みこなしていないと、かなり手こずるかもしれない。一年間授業を受けた諸君は、それなりに戦えたはずである。

まず冒頭の文章「家塾を典るは、其の人を難しとす」が難解であるが、そこで悩んではいけない。授業で何度も言ったように、「最初のわかりにくい文」実はこれがテーマなので、最後まで読んでゆけばなんとなくわかるはずだから、とりあえず放っておいてよいのである。大事なことは、とにかく終わりまで読み通して、全体の構成を考え、論旨をつかむことである。

この文章では、第二・第三段落の一鉅公と張無垢のふたつの話から、筆者の言いたいことがつかめれば、それでOKである。結局、子弟教育における教師の役割、というような話であるとわかれば、設問も大きく間違えることはないはずである。

以下、各設問の簡単な解説をしておこう。

問1 恒例の漢字の意味を問う問題。

(ア) 文脈から考えて、「引用」であることはすぐわかる。

(イ) 「太息」は大きなため息のこと。少々むずかしかった。消去法で選ぶのが、普通の方法であろう。「息」には、①いき、②生む・生まれた子、③育つ・増える、④休む、⑤終わる、の意味がある。

問2

A 当然、次の文との対句がヒント。「父兄の託」を考えれば、「子弟に利」は成績のことであるとわかるし、主語が教師であることも自明である。

B 例によって選択肢自体がヒント。直訳すれば「前人が多く取ると、後人

は得られない」という意味で、「之」は選択肢から名声のこととわかるから、④しかない。

問3 これも選択肢がヒントで、「士人」は家庭教師のことであるとわかる。

「退かんと欲し」ていたのが「其の迹、遂に安し」となったというのだから、①であるとわかる。

問4 定番中の定番、「使役」の問題。これができないようでは、授業に出ていて何も身につけていなかったと言っているようなもの。

(a) 「使之在」で、「之をして在らしむ」で決まり。上に「欲」があるので、当然②しかない。

(b) 書き下しができれば、①②③のどれかであると絞れる。「尊貴の所」は文脈から考えよう。

問5 問6とセットと言ってもいい問題。張無垢が何を言っているかを考える。優秀な子は出世させてやりたいと思ひ、ダメな子でも感化して導くのが教師であり、そこには「敢へて一点の欺心も萌さず」と言っている。「主人の厚薄を以て隆殺を為す」のは「笑ふべし」と言っているのだから、よくない教師のことである。「厚薄」という表現に一番ふさわしいのは、やはり報酬であろう。

問6 問5ができれば、当然できる問題。問5の逆が、よい教師ということになる。